

2026 年度事業計画及び収支予算

はじめに

現在の食料品の物価上昇は、一般市民から食品を寄付いただくフードドライブ活動にも、影響がみられ、寄付量が一昨年より減少傾向にあります。

また、食品業界での生産管理における AI の活用化が進んでおり、食品メーカーからの余剰食品の寄贈が将来的には減少することも予想されています。

一方で、生活困窮世帯への食の支援や食品アクセス困難地域への流通確保といった施策も進もうとしています。また、民間企業での SDGs の取り組み、地域社会貢献活動も進みはじめています。

なにわフードバンクしっかり食べやとして、より社会貢献できる活動を大阪府下に広げていきたいと考えます。

(1) 事業内容

1)食糧の収集・配布を通じて行う、子ども、若者、ひとり親家庭への支援事業及びその他の生活困窮者への支援事業を引き続き強化していきます。

①大阪府下でのこども食堂、子どもの居場所運営団体、一人親家庭支援団体への食支援活動をさらに広げます。(定期配布提携団体数の拡大)

②若者の生活困窮支援団体やその他生活困窮者支援団体、府内の食支援団体、フードバンク団体への食の支援活動をさらに広げます。(不定期配布提携団体の拡大)

③食品提供の協力企業・団体を増やすための情報発信や働きかけを強めます。

2)食品ロスの削減を目指すと共に市民にも同様の啓発を積極的にすすめます。

①行政や提携団体や協力企業からの食品ロス削減イベントや催事に積極的に参加し、市民啓発に努めます。

②フードドライブの取り組みを引き続き強化し、協力団体の拡大を積極的に進めます。

3)全国食支援活動協力会との連携により、関西・西日本のフードバンクへの食材流通の構築と全国的なネットワークづくりを進めます。

①全国食支援活動協力会のすすめる MOWLS(ミールズ・オン・ホイールズ・ロジシステム)をさらに関西・西日本に拡充する活動に協力し、こども食堂等「居場所」に集うすべての人が食事を得られる環境づくりをすすめます。

②関西・大阪での食支援の活動をさらに広げていくために、協力団体である「社会福祉法人八尾隣保館」との連携を強め、その活動の普及、物流構築に協力していきます。

(2) 会員内容

1)正会員団体

現在 10 団体の正会員数ですが、さらに会員数を広げていくための働きかけをすすめます。

1	医療福祉生活協同組合おおさか
2	大阪いずみ市民生活協同組合
3	大阪府森林組合
4	大阪府生活協同組合連合会
5	大阪府農業協同組合中央会
6	大阪よどがわ市民生活協同組合
7	北大阪医療生活協同組合
8	グリーンコープ生活協同組合おおさか
9	生活協同組合おおさかパルコープ
10	特定非営利活動法人ちいさいほいくえんみんなの里

2)賛助会員

企業、団体の賛助会員数をさらに増やしていくよう、働きかけを強めます。また、個人の賛助会員サポーターも拡大できるよう、検討をすすめます。

企業・団体	50 団体
個人	20 人

(3) 収支予算計画

会費での収益と寄付金での収入以外は、収益がない完全非営利事業法人という組織の性格上、今後の課題は、正会員の会費の拡大と賛助会員の拡大、そして寄付金の拡大が不可欠です。

特に、寄付金収入を増やしていくための取り組みを検討していきます。

収入費目	予 算	備 考
正会員会費(団体数)	990 万円	10 団体
賛助会員会費(団体数・個人数)	100 万円	50 団体・30 名
寄付金	500 万円	
雑収益		
合計	1,590 万円	

支出費目	予 算	備 考
事業費	900 万円	
管理費	690 万円	
合計	1,590 万円	

(4) 広報活動

- 1)食の支援を必要としている方々への支援活動がさらに広がるよう広報活動に取り組みます。

ホームページへの通信ニュースの掲載を引き続き行い、活動への理解とご協力をさらに広げていきます。また、行政や関係団体からの出展依頼や参加要請に対し、積極的に協力し、広報活動を引き続き強めていきます。

(5) その他

消費者庁が 2026 年度よりすすめる「フードバンク認証制度」の認証取得に向けた準備をすすめます。